



# 朝風

No.10

令和6年9月5日

朝日中学校通信



朝日中 HP QRコード

## ☆全国学力・学習状況調査結果について

3年生を対象に実施された全国学力・学習状況調査(4月18日実施)の結果が  
出ました。その結果を分析・検証し、本校の生徒の強みと弱みを検証しましたのでご報  
告します。

なお、この調査のみで本校生徒の学力が測定できるものではないと考えておりま  
すし、この結果が、通知表等の成績に反映されることはありません。(個人票は今週中  
に生徒に返却予定です。)

<各教科正答率>

	国語(平均正答率)	数学(平均正答率)
本校	<u>68.0</u>	<u>64.0</u>
三重県	57.0	53.0
全国	58.1	52.5

国語・数学とも、平均正答数や平均正答率が全国・県平均を大きく上回っていま  
す。しっかりとした基礎的な学力が定着していると捉えており、探求的な課題に関し  
ても対応できる能力が十分に備わっていると考えられます。無回答率においても、各教  
科ともに少なく、あきらめずに粘り強く取り組む姿勢が見られます。

□国語に関しては、すべての領域で平均正答数・平均正答率が全国・県平均を上  
回っています。全国平均を10ポイント以上上回っている問題を見ると、知識・技能、  
思考・判断・表現どちらの観点もバランスよく定着している結果が現れています。生徒  
質問紙の国語に関する質問に対し肯定的な回答が多く、国語を学ぶ意欲は高いこと  
から今回の結果につながったと考えられます。今後も読解力向上の活動と自分の考  
えを持たせることを徹底し、それを他者に伝える時間を多く設けていきます。さら  
に、自分の考えが他者にうまく伝わるように、語彙力が上がる活動を増やしたり、表  
現の効果を考えて文章を書かせたりしていく等の実践をすすめていきます。





□数学に関しても、すべての領域で、平均正答数・平均正答率が全国・県平均を上回っています。全国平均を10ポイント以上上回っている問題がほとんどであり、無解答の割合も少なくなっています。知識・技能、思考・判断・表現どちらの観点もバランスよく定着している結果が現れています。今後も、ICT(ロイロノート)や、協働的な学び、振り返りを取り入れることで、深い学びにつながる授業を行っていきます。また、既習事項と今学習している内容が、どのような関連があるかを確認することで、内容の振り返りを行っていきます。

### 学習状況についての特徴的な強みと弱み

#### <国語>

- ◎行書の特徴を理解しているかどうかをみる(全国+17.4)
- ◎目的に応じて必要な情報に着目して要約することができるかどうかをみる(全国+16.8)
- ◎話合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめることができるかどうかをみる(全国+12.3)
- ◎資料を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように話すことができるかどうかをみる(全国+10.4)
- ◎文脈に即して漢字を正しく書くことができるかどうかをみる(全国+10.1)

#### <数学>

- ◎複数の集団のデータの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる(全国+18.6)
- ◎筋道を立てて考え、証明することができるかどうかをみる(全国+18.0)
- ◎複数の集団のデータの分布から、四分位範囲を比較することができるかどうかをみる(全国+17.9)
- ◎目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかをみる(全国+17.2)
- ◎事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる(全国+14.2)
- ◎与えられたデータから最頻値を求めることができるかどうかをみる(全国+14.0)
- ◎統合的・発展的に考え、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる(全国+12.1)
- ◎グラフの傾きや交点の意味を事象に即して解釈することができるかどうかをみる(全国+11.4)
- ◎一次関数について、式とグラフの特徴を関連付けて理解しているかどうかをみる(全国+11.3)

▽国語・数学とも全国平均と比較して、正答率が下回る問題はありませんでした。





### 生徒質問紙についての特徴的な状況

本校は、『人間力を涵養する授業づくり～深く学べる手立てと工夫～』を掲げ、「未来で生きる人間力の育成」に向けた授業づくりに力を入れています。その結果、対象生徒が「国語の授業の内容はよくわかりますか」(全国+ (5.8))という項目や、「理科の勉強は好きですか」(全国+4.2)、「今回の国語の問題では、解答を文章で書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか」で「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」(全国+10.0)、「解答時間は十分でしたか(国語)」(全国+12.3)、「今回の数学の問題では、解答を言葉や数、式を使って説明する問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか」で「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」(全国+11.7)、「解答時間は十分でしたか(数学)」(全国+7.7)等、各教科の学習面においては、粘り強く問題に対処し、その結果が全国平均より高い数値として表れています。

### 学校での取組の成果について

「深く学べる手立てと工夫」を主題に、各教科で単元全体を見通して、どうウェルビーイングを高めるかを狙って授業改善を行いました。さらにタブレットなどのICT機器を効果的に活用して、生徒の学習意欲・学力向上を促しながら、逆境や困難に直面した時に回復できる力を養う取組をすすめました。また、「めあて(ねらい)」と「朝日タイム(主体的・対話的で深い学びに向かう問いを考える時間)」「振り返り」を全教科で統一して実施しました。そこから生徒の学習理解を深め、教職員が明確なビジョンをもって授業デザインをすすめることができました。少人数授業の観点からは、該当学年において、2年時より数学科や英語科できめ細やかな授業を展開する中で、生徒間での教え合いや聞き合い、学び合いが促進されました。今後、ICTを活用した家庭学習を通して予習・復習に取り組ませることで、生徒の自己調整力を育てていきます。

### 生徒の学びの充実を図るための今後の取組について

本調査において、「将来の夢や目標を持っていますか(全国-1.9)」「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか(全国-0.7)」の項目について、学校として課題であると捉えています。特に地域との連携につきましても、取組として弱い部分があったと感じております。もう一度地域連携の重要さを全職員で研修するとともに、心がけて対応していきたいと思えます。

今後は、地域の祭りや総合防災訓練等へ中学生が参加することを学校が後押しするなど、地域で生きる人材育成を図っていき、これまで培ってきた学校と家庭、地域との信頼関係の構築を重視しながら、可能な限り地域連携活動に取り組んでいきます。さらに、コミュニティスクールやPTA、学校アンケートでの保護者・生徒の意見を参考にしながら、学校改革をすすめ、地域ぐるみで子育ての意識を大切にし、保護者や地域の方とともに子どもたちにとって居心地のよい学校づくりをすすめていきたいと思えます。

